

第12回えにわ湖慈しみフェスタに参加しました

長島正幸

去る7月23日土曜日、えにわ湖慈しみフェスタに参加してきましたので、その報告と来年に向けて読者の皆さんへ参加を呼びかけたいと思います。

去年は、地方独立行政法人となり、名称も「さけます・内水面水産試験場」と改称したことから、初めての後援し参加することとしていしましたが、残念ながら雨天中止となり、本年はリベンジ参加です。

このフェスタは、恵庭ライオンズクラブ、NPO法人水環境北海道など、恵庭市内の11の団体をメンバーとした実行委員会が主催する漁川ダム及び道道恵庭岳公園線(117号)の周辺清掃を通じて、水道水源地の現状を知り、安全で安心な水を守るための環境

保全活動です。

当日は好天に恵まれ、市内外の20を超える団体企業から約250人が参加しました。まずは、9時からダム下公園で受付を終え、えにわ湖左岸の開会式場所へ、堤体斜面をチョイと登って軽く汗を掻きます。9時30分からの開会式後、更に奥の植栽場所へ移動して、水際に「サリカ」を植えました。写真のとおり六角形の紙製ポットを10個集めて置くだけの簡単な作業です。たくさんのサリカが根付いてくれることを祈ります。

続いて参加者は道道沿いに11箇所に分かれてゴミ拾いを行いました。私達「さけます内水試グループ」



(平井副場長、池田主査、私長島に、契約職員の菊池さんと高嶋さんが家族で参加、更に設備保守の竹之内さんが加わり総勢9名)は、NPO法人水環境北海道、(株)エコニクス、(財)石狩川振興財団などの方々と合わせて、20名程度で第2ポイントのゴミ拾いを行いました。

ポイントの駐車場からペンケチャラセナイ川沿いのダム管理道を土精橋下まで清掃しましたが、橋の下にゴミが集中して散乱、コンビニの弁当殻や缶類

が橋の両端に沿って落ちていました。大物は、灯油の90Lホームタンクでした。それから駐車場へ戻り、えにわ湖側の林の中へ。有ります、有ります！弁当殻や缶類などが笹の葉に隠れて、いくらでも出てきます。圧巻は、ブラウン管テレビ30～20インチものが4個、4、5人掛かりで急斜面を引き上げ、汗だくの作業となりました。



よくぞ、ここまで来て、捨ててくれましたと呆れ、腹立たしさが込み上げる作業でしたが、ケガなど無く、無事終了しました。12時、各ポイントから終了したグループがダム下公園に集まり、昼食のおにぎりとパン、ジュースを受け取り、芝生で寛ぎました。その間、交流会が開催され、恵庭北高のボランティア部の司会により、参加団体の紹介（さけ内水試は、中島主査がオプションプログラムを紹介）やビンゴゲームなどで盛り上がりました。閉会式の後、ダム下公園駐車場下にある流木等たい積場で、集めたゴミ



ミ山をバックに参加者全員で記念写真を撮りました。

オプションプログラムは、ダム堤体内見学、漁川に生息する魚の紹介、水質調査の実験をダム管理事務所前で行いましたが、ほとんどの参加者が帰ってしまい、数人がダム見学の後に、ダム事務所の方と一緒に内藤主査のお魚紹介トークを聞いて頂きました。

竹内研究主幹、中島主査、内藤主査には、見学者が少なく、何とも申し訳ありませんでしたが、貴重な休日に準備をして頂き、本当にありがとうございました。

晴天の中、たくさんのゴミを拾い、その活動の意義を感じつつ、来年は、もっと多くの人に「さけます・内水面水産試験場」を知って貰うよう継続して参画したいと思うところです。

(総務部 ながしままさゆき)

